

令和4年度

熊本市多核連携都市推進協議会

議題資料

R5. 3. 27 (月) 10 : 00~

- 多核連携都市の実現に向け、平成28年度に熊本市立地適正化計画を策定。
- 令和2年度には“施策展開の方向性等の盛り込み”や“防災視点の強化”を図るため計画を改定。



- 令和3年度以降・・・
 - ・立地適正化計画について庁内での浸透や市民への周知
 - ・地域拠点の拠点性維持・拡充に関する検討
 - ・住宅政策との連携や都市計画制度を活用した誘導施策
 - ・災害リスク周知はもとより、防災指針に位置付けた各種取組の推進
など

⇒ 今年度の協議会では、地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況、令和5年度の調査、分析及び評価など今後の進め方について報告し、ご意見をいただくもの。

1. 評価指標に関する現状等について

(評価指標に関する現状、モニタリング指標の設定)

2. 地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

3. 今後の進め方について

(令和5年度の調査・分析及び評価など)

1. 評価指標に関する現状等について

1. 評価指標に関する現状等について（評価指標に関する現状）

（1）評価指標に関する現状

指標① 居住誘導区域の人口密度（国勢調査ベース）

	基準年		調査・分析及び評価年		
		H27 (H22国勢調査より)		R1 (H27国勢調査より)	R5 (R2国勢調査より)
居住誘導区域の人口密度 (単位：人/ha)	基準値	60.8	目標値	60.8	60.8
			実績値	62.3	61.9 <small>※速報値 R5評価時に 改めて算出</small>

⇒ 来年度評価時に各地区における詳細な実態調査や分析を行い、都市計画制度や住宅政策と連携した施策の検討・展開を図る。

指標② 都市機能誘導区域内に誘導施設が充足している区域数

	基準年		調査・分析及び評価年			
		H27		R1	(参考) R4	R5
都市機能誘導区域内に 誘導施設が充足している 区域の数 (単位：地区)	基準値	13	目標値	—	—	16
			実績値	13	13	R5評価時 に算出

⇒ 北部（商業）、刈草（医療）、富合（商業・医療）の3地区で一部未充足。

⇒ 地域特性や住民意向を踏まえながら地域拠点の拠点性維持・拡充に向けた取組を推進。
なお、富合地区では、土地区画整理事業により商業施設等を誘致予定。

1. 評価指標に関する現状等について（評価指標に関する現状）

(1) 評価指標に関する現状

指標③ 地域活動に参加した市民の割合

	基準年		調査・分析及び評価年					
		H27		R1	(参考) R2	(参考) R3	(参考) R4	R5
地域活動(自治会等の活動、ボランティア・NPOの活動など)に参加した市民の割合(単位：%)	基準値	27.3	目標値	—	—	—	—	44
			実績値	42.3	32.1	29.5	※速報値 34.5	R5評価時に算出

⇒ DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用等、新たな生活様式を踏まえた地域活動のあり方について検討し、地域活動への参加者の増加につなげる。

指標④ 公共交通機関の年間利用者数

	基準年		調査・分析及び評価年					
		H27		R1	(参考) R2	(参考) R3	(参考) R4	R5
公共交通機関の年間利用者数(単位：千人)	基準値	55,436	目標値	55,302	—	—	—	56,000
			実績値	53,342	53,216	35,993	39,594	R5評価時に算出

⇒ 公共交通の利便性向上に向け、定時制の確保や市電延伸などによる公共交通の機能強化はもとより、バス電車無料の日の実施などによる行動変容の促進を図る。

1. 評価指標に関する現状等について（評価指標に関する現状）

（1）評価指標に関する現状

指標⑤ 校区防災連絡会などの設立割合・地域版ハザードマップの作成割合

	基準年		調査・分析及び評価年			
		R1		(参考) R3	(参考) R4	R5
校区防災連絡会などの設立割合 (単位：%)	基準値	92.7	目標値	—	—	100
			実績値	96.9	99.0 ※R5.3月時点	※R5評価時に算出予定
地域版ハザードマップの作成割合 (単位：%)	基準値	42.4	目標値	—	—	55.0
			実績値	45.3	46.6 ※R5.3月時点	※R5評価時に算出予定

⇒ 避難所運営委員会の防災活動を活性化する助成金の創設や地域版ハザードマップを活用した適切な避難行動の促進などを通して、災害対応力の強化を図る。

⇒ 達成見込みの指標については、次の段階に向けた新たな指標についても検討。

1. 評価指標に関する現状等について（モニタリング指標の設定）

(2) モニタリング指標の設定

前回協議会での主な意見（抜粋）

- ・ 居住誘導区域の人口密度に関する現在の評価指標だけでは変化がわかりづらい。
- ・ 校区防災連絡会の設立だけではなく、コミュニティの活性度を測っていくことも重要。

- 多核連携都市の実現にあたっては、長期間を要し、今後も継続的に調査、分析及び評価が必要であることから、現在の5つの評価指標は維持。
- 市民へのわかりやすさの向上やより詳細な施策の進捗管理を図るため、評価指標を補足するモニタリング指標を設定。

1) 転居時に居住誘導区域を選択した人の割合

2) 地域拠点ごとの拠点性の拡充に関する進捗状況

3) 年1回以上訓練等を実施した避難所運営委員会等の割合

※ 今後は立地適正化計画に関する専用ページやSNS等を作成・活用し、計画内容やモニタリング結果等を周知することで、市民や事業者への更なる浸透を図る。

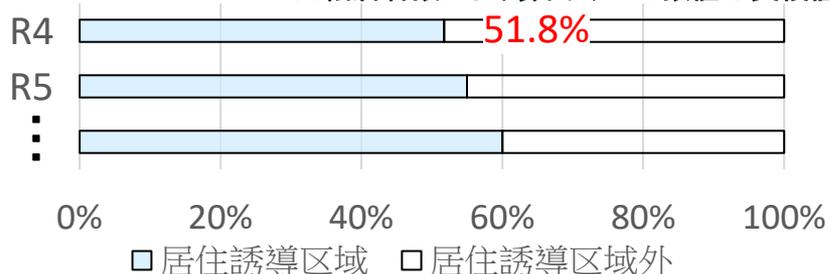
1. 評価指標に関する現状等について（モニタリング指標の設定）

1) 転居時に居住誘導区域を選択した人の割合

- 住基データ（毎年10/1時点）を基に過去1年間で市内に転居した方のうち、居住誘導区域を選択した割合を“年度”や“地域生活圏”ごとに算出。
- 併せて、各区域間の転居動向についても詳細に把握・分析し、人口減少の要因を整理することはもとより、効果的な施策の検討につなげる。

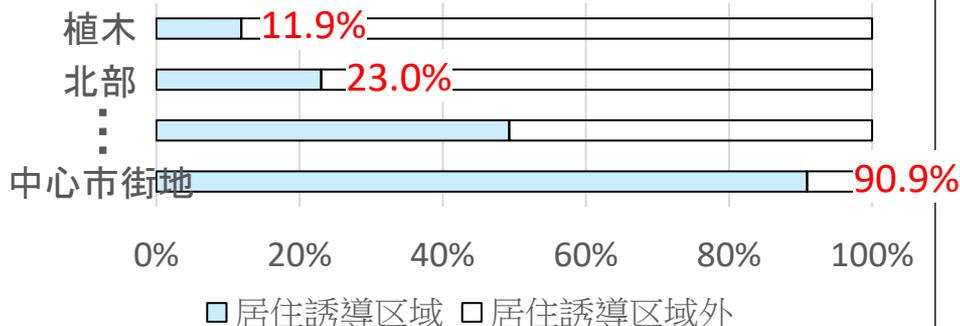
■年度ごとの居住誘導区域への転居割合

※転居者数により算出（R4の数値は実績値）

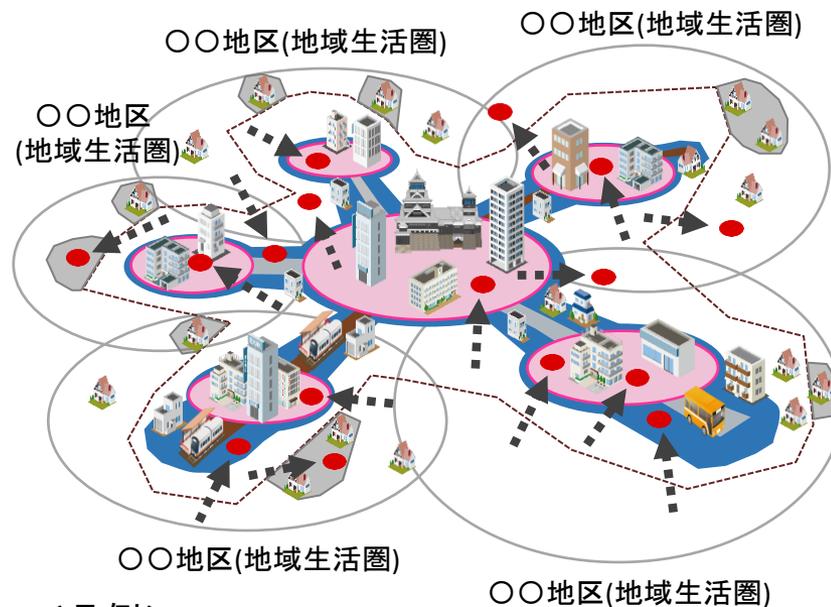


■地域生活圏ごとの居住誘導区域への転居割合

※転居者数により算出（R4実績値を抜粋）



【転居のイメージ】



<凡例>

- : 転居後
- : 都市機能誘導区域
- : 居住誘導区域
- : 地域生活圏
- : 集落内指定区域
- : 市街化調整区域

■各区域間の転居動向(どの区域からどの区域へ) (居住誘導、市街化区域、集落内、調整区域など)

1. 評価指標に関する現状等について（モニタリング指標の設定）

2) 地域拠点ごとの拠点性の拡充に関する進捗状況

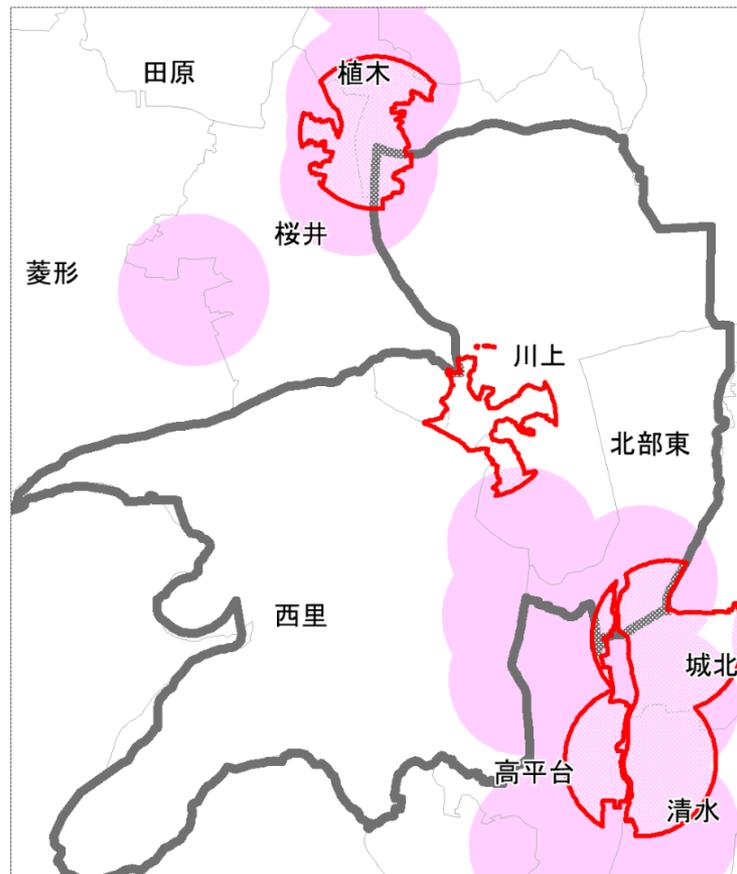
- 各地域拠点における拠点性の拡充に関する進捗状況を見る化するため、各拠点における取組を①機運醸成、②構想、③事業化、④維持の4段階にて整理。
- 誘導施設の充足・拡充に向け各地域の誘導施設のカバー状況を整理し、施設立地を促進。

■各地域拠点における進捗状況

拠点名	①機運醸成					②構想	
	計画周知	地域課題聴取	地域活動支援	地域課題共有	担い手育成	将来像の検討	支援制度構築
1. 植木	実施中				実施中		
2. 北部	実施中				実施予定		
3. 楠・武蔵ヶ丘	実施中						
4. 八景水谷・清水亀井	実施中				実施予定		
5. 子飼	実施中				実施中	実施中	
⋮	⋮						⋮
11. 富合	実施中				実施中	実施中	
12. 城南	実施中						
13. 川尻	実施中				実施予定		
14. 城山	実施中						
15. 上熊本	実施中				実施予定		

※赤：R3からの取組 青：R4からの取組

■各地域の誘導施設のカバー状況



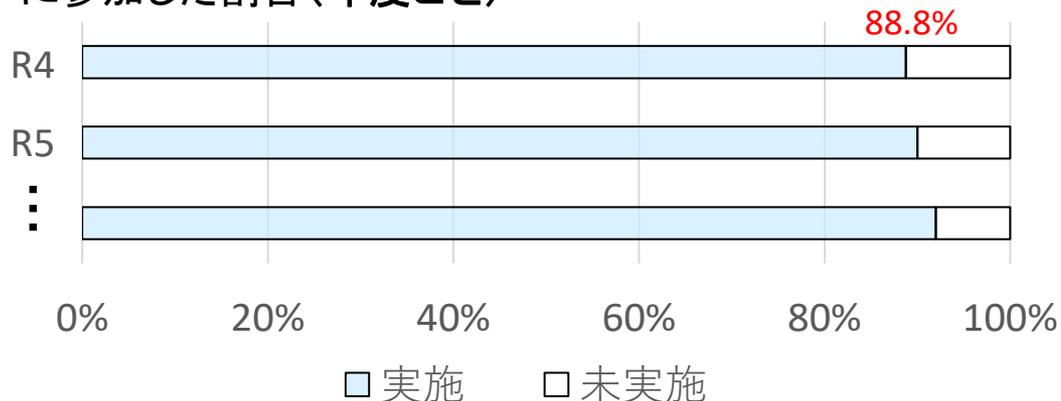
■：誘導施設のカバー範囲
(各施設から800m圏)

1. 評価指標に関する現状等について（モニタリング指標の設定）

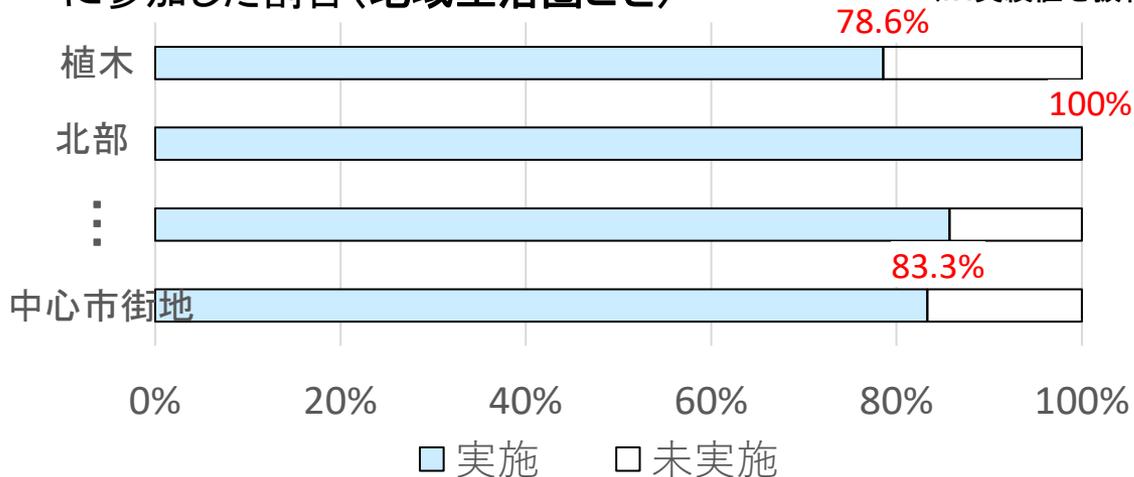
3) 年1回以上訓練等を実施した避難所運営委員会等の割合

○活動頻度を測る指標として、避難所運営委員会等のうち地域住民が震災対処実動訓練に参加した割合を算出。

■ 避難所運営委員会等のうち地域住民が震災対処実動訓練に参加した割合（年度ごと）
※R4の数値は実績値



■ 避難所運営委員会等のうち地域住民が震災対処実動訓練に参加した割合（地域生活圏ごと）
※R4実績値を抜粋



▲ 避難所運営委員会の開催



▲ マンホールトイレの設置訓練

2. 地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

(1) 令和2年度及び令和3年の取組

○地域の特性を踏まえた整備・支援スキームの検討

- ・15箇所の地域拠点において、各地域の特性に応じた地域カルテを作成

○地域拠点への入り込み

・地域

地域拠点の校区自治協 12地域拠点

(※残りの3拠点についても令和4年度において実施済)

・地域団体及び企業

60団体 関係者約100名

・学術機関

熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学、崇城大学、
東海大学の学識者

・各区役所、まちづくりセンター

区長、区民部所属長、まちセン主幹・主査



様々な立場の方からの意見、要望を地域カルテに反映

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

(2) 本年度の取組

○R3年度の取組から見えた課題

- ・自治会、自治協に加え、次世代のまちづくり担い手への周知
- ・まちづくりに興味・関心が少ない層に対する、まちづくり機運醸成の推進
- ・地域の課題を共有する場の設定



○R4年度テーマ：多世代によるまちづくり活動の促進

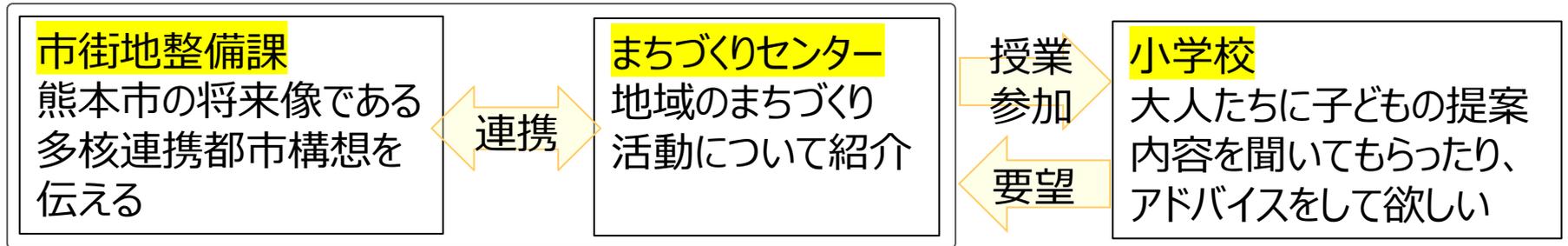
1. 次世代（小中学生）に向けたまちづくりの機運醸成
2. 地域住民からの意見、要望を地域カルテに反映
3. 拠点におけるまちづくりの機運醸成や地域の将来像を検討する場を設定

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

1. 次世代（小中学生）に向けたまちづくりの機運醸成

○取組内容

町の幸福論(小学6年生国語の単元)を活用し、地域の将来像について意見交換を実施。



○期待できる効果

- ① 将来のまちづくりの担い手として育成を図る
- ② 多世代にわたる機運醸成を図る
- ③ 次世代が感じる地域の課題をまちセンを通じて地域内で共有することができる

【今回の取組の成果】

- ・地域の将来に対し、中長期的な課題解決を考えるきっかけとなった



※1 こどもたちからの反応は参考資料として添付

取組後、まちづくりの仕事に就いてみたいと話す子もいたという報告を受け、将来の担い手育成として取り組む意義を感じる

【今後の方向】

- ・小中学校へ取組の周知
- ・まちセンと連携し、自治会など地域住民を巻き込んだ取組



△「町の幸福論」（市内小学校）15

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

3.拠点におけるまちづくりの機運醸成や地域の将来像を検討する場を設定

機運醸成

城山地区

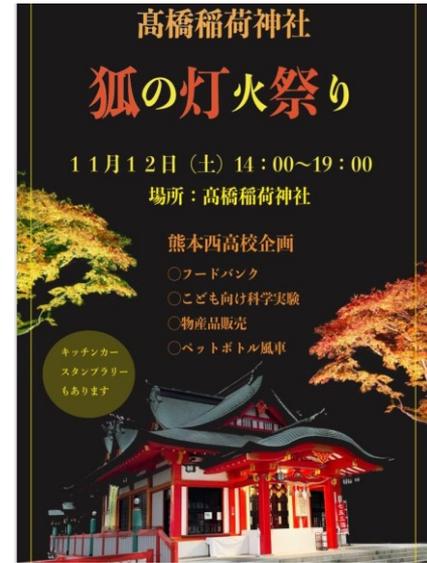
高橋稲荷を活用した -ライトアップイベントの実施-

○高橋稲荷と地域の高校生（ルーテル学院、熊本西高）

- ・城山地区の夜間魅力向上及び文化遺産の継承のためにライトアップイベントをルーテル学院と西高が共同で実施。
併せて、集客向上のためのイベントを地域住民が実施。



△ルーテル学院WS



△高橋稲荷

構想

子飼地区

地域主体のまちづくり（※2 概要は参考資料として添付）

○子飼地区の地域住民対象（民間主催）

- ・商店街の在り方を商店街外部から検討
商店街に欲しい業種や駐輪場等の施設の配置を利用者視点から検討し、空き店舗や低未利用地を活用した計画を策定。
- ・R4年度スケジュール
 - R4. 6月～ 商店街のまちづくりの方針、空き家、空き店舗の配置計画
 - R4.11月～ 地域の意見を取り入れた景観計画、実行計画の策定
 - R5. 2月～ 商店街の建築物のルールに基づいた模型を作成し、地域住民に提示



△子飼地域WS（R4.7）

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

3.拠点におけるまちづくりの機運醸成や地域の将来像を検討する場を設定

構想

健軍地区

健軍商店街の将来 -自律的健康を目指す商店街-

○商店街理事と組合員対象（**熊本市主催**）

- ・商店街の将来像について、土地所有者や借家人を交えて、共有化を図り、実行計画の検討を実施。



△健軍商店街役員会（左：R4.6 右：R4.7）

事業化

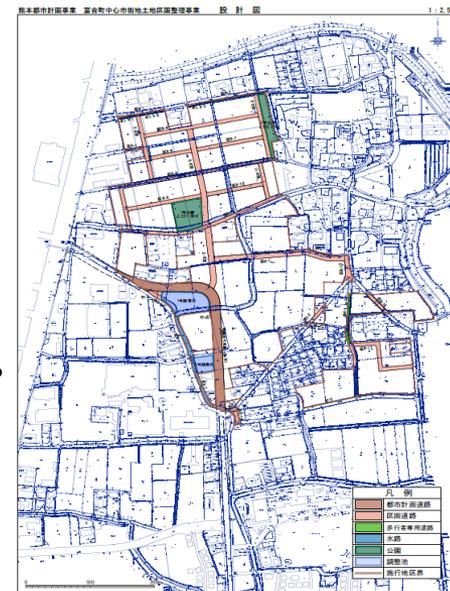
富合地区

土地区画整理事業を契機としたまちづくり

○富合町中心市街地土地区画整理組合

- ・土地区画整理事業により不足している都市機能（商業）の誘致を検討。

平成13年	富合町中心市街地土地区画整理事業決定
平成19年	熊本市・富合町新市基本計画策定
平成20年	熊本市、富合町合併
平成28年	組合設立準備委員会を設立
令和4年5月	組合設立を認可



△令和4年 事業計画図

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

(3) 本年度の課題及び次年度の主な取組

○課題

1. 次世代を含めた多世代によるまちづくりの推進
2. 地域住民や関係者からヒアリングした課題の検証
3. 拠点におけるまちづくりの場づくりに向けた取組の拡充



○次年度の主な取組

1. まちづくりセンターと小中学校の連携強化をサポート
2. GPSからの人流データや施設の圏域データ等を活用し、ヒアリングした課題の分析を行い、施策を検討・展開
3. 継続した地域への入り込み及び土地所有者（拠点内）のニーズを把握

2.地域拠点の拠点性維持・拡充に関する進捗状況について

(4) 拠点性維持・拡充に向けた進め方

○ロードマップ



○地域拠点進捗管理表

地域拠点	①機運醸成				②構想		
	a.立地適正化計画の周知	b.地域課題の聞き取り	c.地域活動の支援	d.地域内の課題共有	e.次世代の担い手育成	f.地域の将来像を検討	g.新規支援制度の構築
植木	実施中				実施中（植木北中、植木小）		
北部	実施中				実施予定（川上小、桜井小、西里小）		
楠・武蔵ヶ丘	実施中				実施中（弓削小）		
八景水谷・清水亀井	実施中				実施中（麻生田小）		
子飼	実施中				実施中（碩台小）	実施中（将来像検討中）	
長嶺	実施中				実施中（月出小）		
水前寺・九品寺	実施中						
健軍	実施中				実施予定（東町小）	実施中（ウエルネスオートノミー構想）	
平成・南熊本	実施中				実施中（田迎南小、田迎西小）		
刈草	実施中				実施予定（日吉東小）		
富合	実施中				実施中（富合中）	実施中（区画整理事業）	
城南	実施中						
川尻	実施中				実施予定（川尻小）		
城山	実施中						
上熊本	実施中				実施中（花園小）		

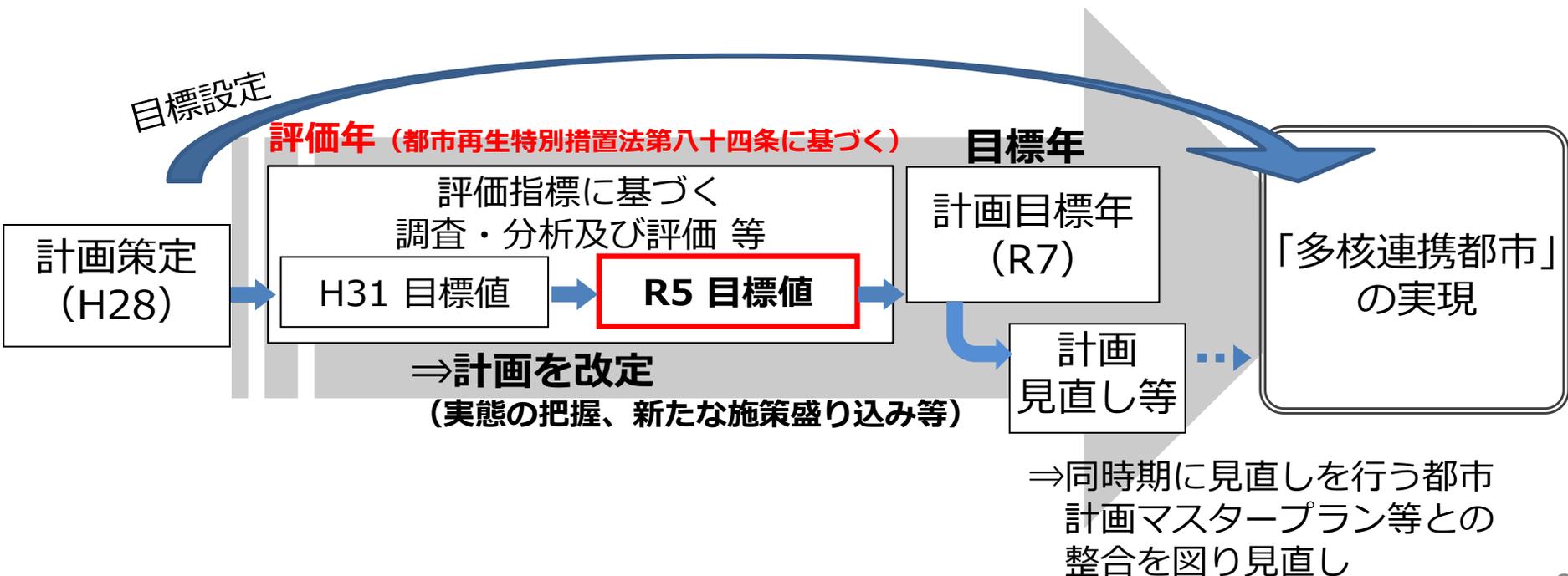
R3からの取組：赤
R4からの取組：青

3. 今後の進め方について

3. 今後の進め方について

(1) 今後のスケジュール

- 市内での立地適正化計画の浸透 及び 市民への周知はもとより、地域拠点の拠点性・維持拡充に関する検討や、関係部局と連携した災害リスクの共有を図りつつ、各種施策の展開及び進捗管理を実施。
- 令和5年度（評価年）には、都市計画基礎調査結果（R4実施）等を活用し、評価指標に基づく調査、分析及び評価を実施し、計画改定等を実施予定。
⇒本協議会を年3回程度開催し、評価結果や改定内容等について協議・調整予定。



3. 今後の進め方について

(2) 令和5年度の調査、分析及び評価について

【背景】

- 居住誘導区域の人口密度が減少傾向、都市機能誘導区域における誘導施設が一部未充足
- 新たな災害リスクの公表（洪水（中小河川）、高潮など）
- R7に各種都市計画を見直し予定（都市マス、区域区分、用途地域など）

【調査・分析にあたってのポイント】

- 転居実態や事業者意向等のもとより、TSMC等進出に伴う住宅・交通需要等も踏まえ、居住・都市機能の誘導に資する効果的施策を検討
- 地域拠点における特性や利用実態等を踏まえ、各地区における取組方針や誘導施設等を精査
- 新たなハザード情報等を踏まえ、複合的な災害リスクや誘導区域への影響について整理・分析し、それらの明示手法や追加すべき取組を検討
- 今後の土地利用方針や各種実態(地形、災害リスク、利便性等)を踏まえた誘導区域の在り方を検討・整理

3. 今後の進め方について

(参考1) 転居実態や事業者意向等に関する調査について

- 従来の都市計画基礎調査等による実態把握を補完するため、住民や事業者を対象としアンケート調査やヒアリングを実施予定。

【目的】

- ・属性別の転居実態や事業者の開発に関する意向を把握し、関係性を分析することで、効果的な誘導施策の検討を行い、計画の実行性を高める。

【調査内容のイメージ】

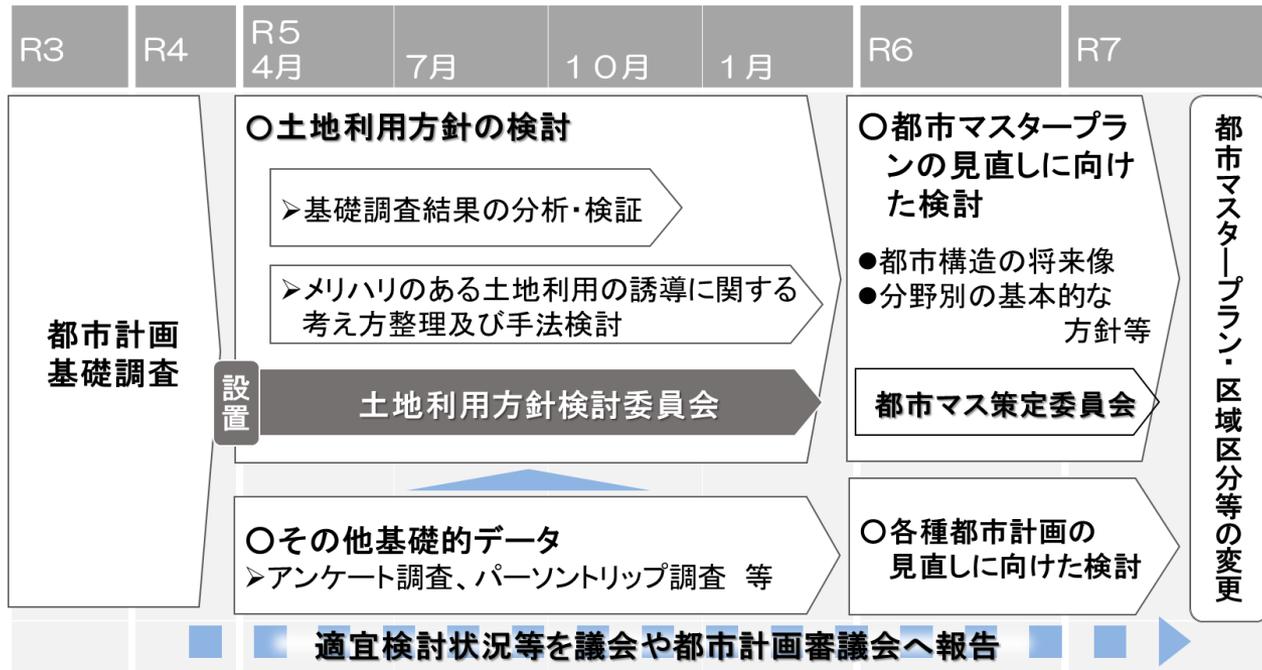
	住 民	事 業 者
対象	直近3年間で市内に転居した方 (2000人程度を対象)	不動産会社や商業等事業者
手法	アンケート調査	ヒアリング調査
主な調査項目	・年齢、家族構成 ・転居前の居住地や転居理由 ・居住地選択で重視すること ・主な移動手段や勤務地 ・よく利用する地域拠点 ・日常生活に必要な施設 など	・昨今の開発需要 ・宅地や事業地の開発時に重視すること ・ネックとなる都市計画上の制限 ・求められる緩和策 など

3. 今後の進め方について

(参考2) 今後の熊本市の土地利用について

○令和7年度に各種都市計画の見直しを迎えることから、来年度「土地利用方針検討委員会」を立ち上げ、都市計画の根幹をなす土地利用方針について検討。

【検討スケジュール（予定）】



【検討事項】

- ・拠点性・生活利便性の維持・拡充、頻発・激甚化する自然災害への対応、農業や自然環境に配慮した産業用地の確保等、土地利用方針に関する事項
- ・その他個別の土地利用関連の都市計画（地区計画等）に関する事項